

エマージング債券市場の投資環境について

足元のエマージング債券市場の投資環境につきましてご報告申し上げます。

投資環境

米国における住宅市況悪化を発端とした世界的な景気減速が懸念されるなか、4-6月期のユーロ圏のGDP成長率が前期比でマイナスになり、また、トリシェ欧州中央銀行(ECB)総裁が会見で欧州経済の下振れリスクについて言及しました。市場では欧州の景気減速懸念が高まり、株式市場は軟調に推移しました。エマージング株式は、先進国経済の減速による需要減退を懸念して▲10.0%の下落(円換算ベース、2008年8月29日～9月5日、以下同じ)となりました。また、同期間コモディティ価格は、主に原油価格の下落により、▲8.5%の下落となりました。

株式およびコモディティ価格が大きく値下がりする中、エマージング債券市場は、現地通貨ベースでは▲0.2%と、相対的に堅調に推移しました。しかし、エマージング諸国の通貨が対円で、▲5.7%と軟調に推移したことから、円ベースでは、▲5.9%の下落となりました。

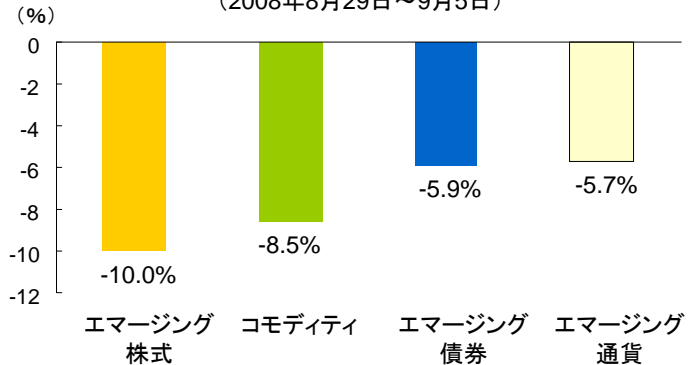
為替市場では、円に対するキャリートレードの巻き戻しや、コモディティ価格の下落などに伴い、高金利通貨や資源国通貨である、南アフリカ・ランド、トルコ・リラ、ブラジル・リアルなどが対円で売られました。また、欧州の景気減速が懸念される中で、ポーランド・ズロチやハンガリー・フォリントなどが対円で売られました。

今後の見通し

エマージング債券市場については、中長期的に強気の見方を継続しています。一部のエマージング諸国においては米国の景気減速の影響が見受けられ、経常収支が黒字から赤字に転落する国もあることから、今後も市場動向を注視する必要があります。しかしながら、エマージング諸国のファンダメンタルズは、基本的に良好であるとの見方を維持しています。エマージング通貨は、中長期的には、相対的に高い経済成長率によって下支えされると弊社では見ています。

各市場の騰落率(円ベース)

(2008年8月29日～9月5日)



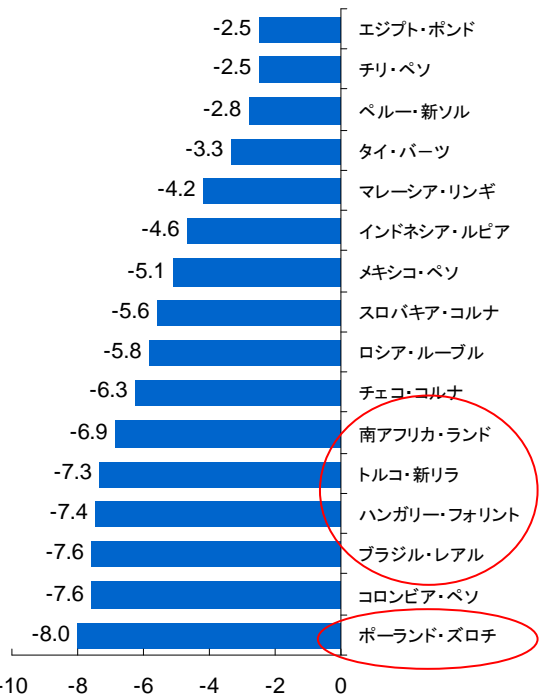
出所:ブルームバーグ

期間:2008年8月29日～9月5日

エマージング株式:MSCI エマージング・マーケット・インデックス(円換算)、現地通貨建て債券:JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)、コモディティ:S&P GSCI(円換算)。エマージング通貨:JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドの円ベースから現地通貨ベースのリターンを減算したものを。

エマージング通貨(対円)の騰落率

(2008年8月29日～2008年9月5日)



(%) -10 -8 -6 -4 -2 0

出所:ブルームバーグ

上記は、JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドの構成国通貨